

岐阜県教販通信

No.0031

GIKYOHAN TIMES

2024 年 8 月発行

読書感想文コンクール

当社は岐阜県の全小中高校に 100 年以上教科書を供給し続けてきまして 2021 年度に、「スクールイーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書よって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となれと思います。第 4 回「本の日読書感想文コンクール」開催します。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952 年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

今年も、「本の日 読書感想文コンクール」が、11 月 1 日の「本の日」を目指して、9 月 1 日から 30 日までの募集期間で行われる。わたしは、2021 年の第 1 回開催からずっと最終審査を担当し、岐阜県内の小学生、中学生の皆さんの応募してくれた作品に接してきた。小学 1 年生から中学 3 年生まで、いろんな子どもたちが自分の大好きな本について心をこめて書いてくれた感想文を読ませてもらうのを、毎年楽しみにしている。ところが最近、ごく一部の大人の間の心ない噂を耳にして、情けない思いをしてしまった。作文審査は AI の使用について注意を払わなければならないというのだ。生成 AI とやらが幅をきかせ始めているのは、わたしの様に流行に疎い人間でも承知している。しかしそれが何故、子どもの書く文章にまで影響を及ぼすというのだろうか。

調べてみると、生成 AI とは、テキスト、画像、音声、動画などの新しいコンテンツを自動的に生成する技術なのだという。従来の AI がデータの分析や予測を主に行うのに対し、生成 AI は新たなデータやコンテンツを創り出すことができるのだそうだ。

たしかに、画像生成 AI はユーザーの指示に基づいて新しい画像を、動画生成 AI はテキストや画像から新しい動画を作り出す機能を持っており、それで出来上がった画像や動画を見たことがある。また、若者がテキスト生成 AI というものを使うところに立ち会わせてもらったが、操作する者からの質問に答えたり、求めに応じてさまざまな事項について解説する新しいテキストを生成することができるのもわかる。極めて高度な操作が必要ではあろうが、うまくキーワードを与えていけば、物語を作り上げることも不可能ではないだろう。最近では、生成 AI が小説を書くという未来を描いた SF 漫画も登場している。

しかし、ストーリーを作るのはできたとしても、読書感想文のように個々の人間の「感想」を綴っ

たものを生成するのは無理ではないだろうか。だって、「感想」とは、「何か物事に接したときに心に感じたことや考えたこと」なのである。十人居れば気は十色。全く違うさまざまな個性を持った人間がそれぞれに抱く「感想」は、いくら優れた AI であろうと生成できるはずがない。あるとすれば、架空の人物を創造してその人間が書いた「感想文」というストーリーになるはずだ。一冊の本について、それぞれの違う感想を知るからこそ読書感想文は面白いわけで、それがフィクションになってしまったのでは全くつまらない。騒いでいる連中は、AI の作った架空の「感想」を子どもたちが自分のものとして応募したりすると疑っているのだろう。たしかに高額の商品や賞金が得られるなら、大人の中には AI が生成した感想文で応募する不心得者が出るかもしれない。でも、子どもがそんな不正を考えるだろうか。いや、賞品目当て以前に、そんな「感想文」を作って賞を獲得しても、ちっとも楽しくない。それどころか、悪い行為をした後悔の不快感が残るに違いない。大人の計算高い考え方で、子どもの心を計ってはならないのだ。

たしかに、宿題やレポートを提出する場合なら、AI を使って楽をしようと思ってしまうかもしれない。だが、自分の感想を自由に綴る感想文は、それらとは違うはずだ。自分の「心に感じたことや考えたこと」を話したり書いたりするのは、大人でも多くの場合楽しく感じるのではないか。

ましてや子どもたちは、心に感じた喜びや驚きを常に表現しがっている。今回のコンクールでも、彼らのそういう気持がこもった感想文に出会いたい。是非、多数の応募を期待しているところだ。